

バイオテクノロジー標準化支援協会ジャーナル No.122

SABS Journal No. 122

発行日：2021年1月20日

URL：<http://sabsnpo.org>

コロナ禍は収まるどころか全国的に悪化の一途を辿っています。今回のジャーナルでは先ず1月23日に予定していた第105回定例会を中止するというお知らせをせざるをえないことになりました。お知らせがこんなに遅くなってしまいました。深刻なコロナ禍に加えて米国の大統領交代を巡る大騒ぎやら話題が絶えず変わる情勢に毎日振り回されている生来遅筆の筆者（檜山）ですが、お許し頂ければ幸いです。

昨年はコロナ禍のため定例会会場の都立大八雲クラブは3月から5月まで利用中止となっており、この間定例会を開きませんでした。6月1日から再開し、6月27日には第102回定例会を開くことが出来ました。その後、例年のように7月と8月は夏休みとし、9月に第103回の定例会を開きました。このときは会場の都合で定例の第4土曜はとれず、12日（第2土曜）になりましたが、ほぼ前回と同人数の方々の出席を頂き盛会でした。当時新たに見つかる感染者のほとんどが20-30代となるなどコロナ事情も大きく変わって来ていました。八雲クラブのある渋谷は若者がタムロする街ですから心配でしたが、何と12名の方々が出席され皆お元気な様子でホッとした次第でした。当時渋谷の通りもさすがにコロナ以前程混んではいませんでした。続いて10月の第104回ではウイルス専門家石古博昭氏にお願いしてウイルスの一般的なお話とコロナウイルスについて詳しい解説をして頂きました。このときもやはり10数名の方々に出席して頂き、活発な質問と議論に沸きました。12月初めには忘年会をやる関係で、例年11月には定例会をお休みします。そうこうしているうちに東京では急に感染者数が増え始めました。行政の方では相変わらず go to キャンペーンなど継続する中、日に日に状況は悪化、12月12日に予定していた定例会は取りやめざるを得なくなってしまいました。そこで翌年の1月23日に予定している定例会を新年会として期待していました。当時（10月半ば）の東京の一日の新たな感染者数は200人でそれでも驚いていたのですが、年末と更には年が明けても減るどころか激しい増え方で一日なんと2千人以上の新たな感染者が出るようになり今日に至っている事をご承知の通りです。今日（1月20日）の東京都の新たな感染者数は1247人で「高止まり」とも思えませんが確実に増えたのは間違いありません。既に医療崩壊は全国的に始まっているようです。

世界を見渡すと極く一部の国を除いて日本より遥かに多くの感染者が毎日出ているのが現状です。イギリスでこれまでより感染力が強い変異株が発見されしかも広がりつつあります。もともとこの塩基数3万以下の小さなRNAウイルスが変異し易い事は予想されていきました。変異は random なので理論的には感染しにくい株もしやすいか株もできるはずですが、しにくい株は宿主に入りにくいので自然淘汰されて残るのは感染力が強い株とな

る確率が高いわけです。これまでに南アフリカやブラジル、最近アメリカでも報告されています。最近の我が国の急速な感染の広がりには変異株も関係している可能性は十分あると思われます。既に渡航歴のない人々からも変異株が発見されつつあります。

ワクチンはコロナ禍を収めるのに有効な筈です。今いくつかの国で大々的に使用の始まった **Pfizer** 系のワクチンはいわゆる RNA ワクチンでウイルスの RNA の一部を筋肉注射して細胞に取り込ませ、細胞内のタンパク合成系に messengerRNA として働かせウイルスタンパク質の一部を作らせるというもの。随分大胆な発想ですが 30 年以上前から試みられていて既にいくつかの病原体に対するワクチンが作られているようです。以前このジャーナルでもガンの免疫治療の一環として研究が進められていることを紹介した覚えがあります。一般にワクチン開発には年単位の時間がかかっていますので期待していなかったのですが、ここまで **Epidemic** が広がると期待せざるを得ません。今回かなりの成績が挙げている対コロナ mRNA ワクチンは他にもいくつかあり、いずれも数カ月で出来たのは驚きです。副作用の心配はありますが少しでもコロナ禍の収束に効果を上げてくれる事を祈るばかりです。

Pfizer 系ワクチンは何故か零下 70 度でしか保存できないのとのことで、‘特殊冷凍庫’が必要という‘無知’な報道が **Panic** を広げてしまいました。我々生化学屋はいわゆる **Deep Freezer** として昔から使っていたし、ドライアイスという超低温冷媒は凍結サンプルを運ぶときの常識です。大昔からアイスクリームを買うとついて来るし、今やちょっとしたスーパーでもタダで呉れます。ようやく最近マスコミでもドライアイスの話が出てきたとおもったら、何と最近になって日本政府が何 100 台ものフリーザーをワクチン輸入のため買い占めたとか、そのため地方自治体の保健所が困っているとか。相変わらずピントはずれの報道を淡々とやる無知なマスコミがあるのは如何なものか。因みに **Wikipedia** によるとドライアイスは 100 年近く前にアメリカの会社 **Dryice Corporation of America** が量産化に成功して、それ以来超低温の貯蔵に使われてきました。既に Covid-19 ワクチンの貯蔵や運搬に使われているとも書いてあります。(https://en.wikipedia.org/wiki/Dry_ice)。

一方、遂にあの **antiscience** 大統領が落選するという朗報がありました。**Trump** は就任式に出席しないという。150 年以上前にも一人そういう大統領がいたそうです。この **Andrew Johnson** は南北戦争が終わった直後暗殺された **Lincoln** 大統領の副大統領だった人で大統領になっても奴隷解放を認めなかったので再選されず怒って就任式に出なかったりして当時から史上最悪の大統領と言われていたようです。でもまた悪い人が 4 年前に当選してしまい、遂には扇動して連邦議会議事堂にならず者の武装集団を送り込むという文字通り前代未聞の不幸事を起こしてしまいました。これを書いている今、大統領は別荘に逃げ、厳戒のもと当選した次期大統領の就任式が行われようとしています。新大統領 **Joe Biden** にはこの世界一感染者が多いうえ、分断されてしまった国を回復させるという大変な課題が控えています。なんとか世界のためにも頑張っただけと願うばかりです。

SABS ジャーナルでは、故奥山典生東京都立大学名誉教授が 2015 年 6 月 13 日のご逝去直前まで毎回様々な分野にわたり溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継いだ我々が協会を続けさらに発展させて行くため、毎月の定例会を継続して来ました。定例会ではこれ迄通り専門家の方々に話題を提供して頂き、自由な討論を通じて勉強と親睦を深めています。

また当会の活動はこの定例会の他、川崎博史理事を中心に、やはり奥山先生の懸案だった 1942 年に緒方富雄博士によって創刊され、2013 年に 157 巻をもって休刊となった「医学と生物学」を 2018 年暮れにインターネットジャーナルとして 158 巻の復刊を果たしました。投稿数も順調に増え、今年は早くも 161 巻 No.1 (2021)が発行されています。

<https://medbiol.sabsnpo.org/EJ3/index.php/MedBiol/issue/view/38>

医学中央雑誌に収録されることになり、国会図書館にも登録する手続きが現在進んでいます。創刊当時からこの雑誌は医学と看護学、保健学、薬学、生物学に限らず、化学、農学、や工学関係など幅広い分野を網羅していました。また原著に限らず総説、エッセイ、評論更には図書の紹介も含めてぜひ皆さまの投稿をお待ちしています。

現在、このジャーナルを読んで下さる方々は 600 名近く居られます。殆どの方が奥山先生の関係で先生の広がった人脈に改めて驚いていますが、ぜひ読者の方々からも話題提供をして下さる方をお待ちしています。ご感想、エッセイなどのご投稿も大歓迎です。また新たに購読希望の方々をご紹介頂ければ幸いです。筆者のアドレス thiyama@athena.ocn.ne.jp にお知らせください。

このジャーナルはバイオテクノロジー標準化支援協会 (SABS) 会員だけではなく、広い意味でのバイオテクノロジー関係の方々にも配信しています。ご興味の無い方は上記アドレスで結構ですので配信無用の旨をお知らせください。同じく配信先アドレス等の登録情報変更、バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録をご希望の方はメールにてその旨お知らせください。またウェブサイトに関するご意見やエッセイ、書評などもご承諾頂ければジャーナルに掲載しますのでぜひお寄せ下さることをお願いいたします。

特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会

NPO Supporting Association for Biotechnology Standardization (SABS)

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail:sabs.elibraly.i@gmail.com

URL:<http://sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介、小林 英三郎、田坂 勝芳、松坂 菊生、小川哲朗、川崎博史、檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹